

〔研究ノート〕

住吉の白波

—宗達筆『松島図屏風』と凡河内躬恒・源経信の和歌—

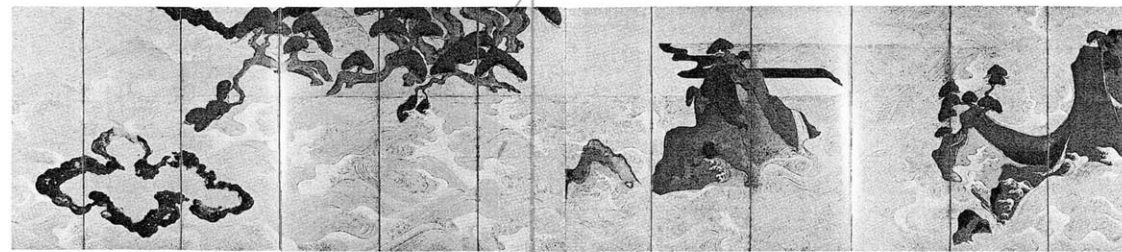
平成3年9月15日、当館の日曜美術講座において、私は「住吉の白波—宗達筆『松島図屏風』を読む—」と題して、この作品の構成と主題についてお話いたしました。この小文はその概要です。

宗達の代表作『松島図屏風』（紙本着色、六曲一双、挿図2）は現「王国・ワシントンのフリーア・ギャラリー」に所蔵されています。もと堺の祥雲寺に伝わったものといわれ、明治のときに海を渡りました。その制作の時期はわかっていませんが、法橋位を得てまもない寛永期（1624—1643）の前半頃ではないかといわれています。

この『松島図屏風』はいままで多くの研究者によって主題や造形性について論じられてきました。この画の主題、つまり画に描かれている場所について、『伊勢物語』などの文学作品や『異本伊勢物語絵巻』『慕帰絵』などの絵画作品を典拠にし、また図様の特徴を論拠にして、また論者の実地検証の経験を踏まえて、宮城の名勝の「松島」（田口榮一氏、安達啓子氏等説）、『伊勢物語』ゆかりの「伊勢の海」（福井利吉郎氏、松下隆章氏、玉蟲敏子氏等説）、同じく「住吉の浜」（村瀬実恵子氏説）、歌枕の「末松山」（千野香織氏説）などといわれ、またそのような特定の景観を描いたと判断する確証は得がたく、この画に関して主題を考えるのはあまり意味がない、むしろ文学的なものとの関わりから脱皮した、波、岩、島、松、洲浜、霞（雲）をもって構成された景物図とみるべきではないかという意見（山根有三氏、武田恒夫氏等説）も出されました。

江戸後期の画家、酒井抱一編纂の『光琳百図』後編（文政9年刊、1826）に、宗達本『松島図屏風』の右隻を手本にして、法橋光琳が友人の求めに応じて描いた『白波松島図屏風』（仮題、挿図1）六曲一隻が木版墨刷の図版として掲載されています。その図版の欄外に、「松島四尺五寸六枚折屏風極彩色」の注記が小さく書かれています。この抱一がしるした「松島」ということばによって、近年、宗達本に「松島図」の名が与えられたのではないかと考えられます。

「白波松島図」というのは吉祥の画題である「波図」の一種と考えられます。「白波松島図」屏風が江戸時代を通じてたくさん製作され、日常の室内の調度具として使われたらしいことは、フリーア美術館所蔵の『誰袖図屏風』六曲



①左隻「白波浜松図」

挿図2 松島図屏風 俵屋宗達筆 フリーア・ギャラリー蔵

②右隻「白波松島図」

一双のうちの右隻に、画中画として宗達本や光琳本とそっくりの「白波松島図」の屏風が描かれていることから想像されます。ポストン美術館にある有名な伝光琳筆『松島図屏風』六曲一隻もそのような遺品の一つであります。

さて、宗達本の構図の上で、面白い趣向がなされています。それは本図が複数の視点で構成されていることです。

まず、宗達本は波の線と浜辺の線が右隻から左隻へ連続して表されていますので、その画面の枠は両隻を合わせたものと考えられます。横長の一つの画面と見ますと、この画の構図の視点、すなわち画家の視点は海の上にあり、沖合い遠くではなく、渚に近いところに視点を置き、前景に松の生えた小島を含み、遠景に松林のある浜辺を望んでいます。この画からダイナミックな力動感や生命感を感じるのには、私たちが視点を海上に置き、画家と同じ眼でこの白波が立ち騒ぎ浜辺の磯馴松がおどる大景観を見ているからであります。通常ありえない視点をとることは見る者に心理的に強い動揺を与えます。この画家のねらいの一つはそこにあったと思われる。

しかし、海上の一点に視点があるとしみますと、私には何か合理的に割り切れないものが心にのこります。かえって、この画の瞬時的な表現が気になってきます。右隻の「白波松島図」（挿図2の②）に注目しますと、画面左にある二つの

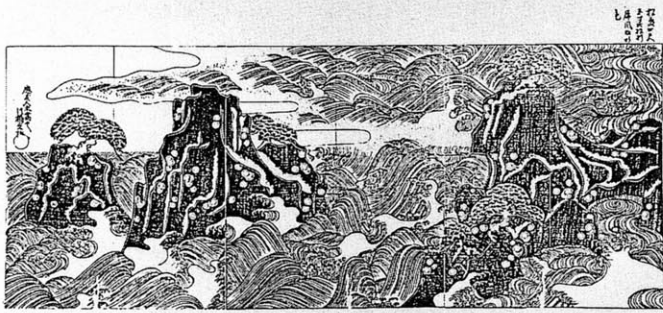
山形をもつ「島」の右側が屏風の縦枠で断ち切られているので、それが「島」であるのか、あるいは岸の岩礁の一部であるのか、判断が付きません。画面左の島はそれよりも遠く沖合に位置しているように見えます。島の背後、沖合に金砂子による「霞」が横にたなびいています。右隻のみを見るとき、視点は陸地にあり沖合を眺めているように思われます。

しかし、沖合にある「霞」形は左隻の「白波浜松図」（仮題、挿図2の①）に移ると、とたんに金砂子による「洲浜」形に変わります。これはじつにファンタスティックな表現で、画家は意識的に行っていると思われる。ここでは、この「霞」形と「洲浜」形は視点の

挿図3 源経信「をきつかぜ」時代不同歌合より

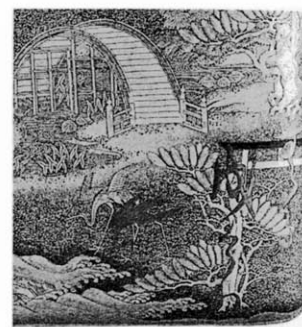


挿図1 光琳筆「白波松島図屏風」(仮題) 『光琳百図』後編より





挿図5 海賦装 熊野速玉神社古神宝のうち



挿図6 住江(住吉)蒔絵手箱 桃山時代

転換装置となっているのです。そして左隻は右隻と違って海上に視点を置き沖合から陸地を望むように表されているように思われます。としますと、右隻と左隻は正反対の視点で表されていることになり、つまり沖と陸が向き合うという構成が考えられます。屏風を二隻横に並べて鑑賞するだけではなく、ときには一隻づつ個別に、また二つの隻を向かいあわせて用いたのではないのでしょうか。

左隻「白波浜松図」の海上に黒い銀砂子によって縁取られた金砂子の「洲浜形」があります。

『栄花物語』「月の宴」に、「造物所の方にはおもしろき洲浜を彫りて、潮みちたるかたをつくりて、(略)」とあり、洲浜は満ち潮のときに現

挿図4 凡河内躬恒「住よしの」嵯峨本「三十六歌仙」より



われるものです。この「洲浜形」はこの場面が「満ち潮」のときであることを示しているのです。だから白波が激しく岸に打ち寄せているのです。これと同じ表現のものとして熊野速玉神社の古神宝の『海賦装』に描かれた「波洲浜図」(挿図5)があります。宗達本のそれは『平家納経』「授記品」の表紙絵見返絵に描かれた洲浜形に典拠があるといわれています。

宗達本は右隻左隻ともに「白波」が主要モチーフであることはまちがいがありません。そして「小島」(岩礁)と「浜松」も重要なモチーフとなっています。宗達はこれらのモチーフを巧みに画面構成していますが、モチーフそのものは新しいものではなく、伝統的なものであり、有職文様の一つであります。平安時代の物語『狭衣物語』巻第三に、女房の衣裳について「裳は青き海賦の浮線綾に沈の岩たて黄金の砂に白金の波寄せ浸れる松の深緑の心ばへぞ縫物にせられたる」という記述があります。つまり海辺や波や貝などを浮き出すようにした地色の青い綾織物に沈香のような黒褐色をした岩を立てたり、金糸で刺繍した砂に銀糸で縫い取りした波を打ち寄せて、海波につかっている松の濃い藍色の感じを刺繍してあったという。この裳の図柄と色合いは、宗達の『松島図屏風』のそれと同じではありませんか。彼が直接何を典拠にしたのかはわかりませんが、伝統的な海賦文様にヒントを得て描いたのに

はまちがいがありません。

ところで裳の図様に「白金の波寄せ浸れる松」というのがありましたが、これと同じもの、つまり「松の枝に白波がかかっている」情景が左隻に二個所表されています。これはこの画の眼目になっています。このモチーフについては、私はかつて『美のたより』No.95において、伝土佐光重筆『浜松図屏風』を例にして、平安時代の代表的歌人源経信(1016-97、挿図3)の歌「沖つ風吹きにけらしな住吉の松の下枝を洗ふ白波」(『栄花物語』「松のしづえ」、『後拾遺和歌集』)が典拠になっていることを指摘しました。撰津国の住吉神社の浜の白波に浸れる松の下枝を詠んだこの経信の叙景歌は後世、和歌や美術工芸に大きな影響を与えました。たとえば、桃山時代の『住江(住吉)蒔絵手箱』の蓋表(挿図6)には「松の下枝に白波がかかっている」情景が表されています。それが「住吉」を象徴するものの一つとなっていることを示しています。としますと、宗達本の左隻は「住吉の白波と浜松」を表していると解釈することができます。

一方、右隻の「白波松島図」も、何か「住吉」にちなむ和歌が典拠になっているのではないのでしょうか。それは、平安時代の歌人で『古今集』の選者の一人、凡河内躬恒(挿図4)の有名な歌「住吉の松を秋風吹くからに声打ち添ふる沖つ白波」(『古今集』)ではないかと私は考えます。この躬恒の歌と前の

経信の歌は住吉を詠んだ名歌としてしばしば歌論書にとりあげられました(『袋草紙』『十訓抄』『愚見抄』など)。この二首が収録されたものに後鳥羽院撰『時代不同歌合』(挿図3)があり、経信の歌は三番右で柿本人麻呂と合わされています。また躬恒の歌は五十六番左で、相手は紫式部です。宗達は「時代不同歌合絵巻」を手本にして色紙や扇面に歌仙図を描いており、当然その二つの歌は知っていたにちがいがありません。また室町時代の連歌の寄合集『連珠合璧集』(一条兼良、1402-81)に「白浪とアラハ」(おきつしら浪。水の白浪。あさせしらなみ)とあり、その寄合として「たつ。よする。うつ。かへる」をあげ、前出の躬恒と経信の住吉の歌がその例としてあげられています。また「嶋とアラハ」に対して「はなれ。うきたる。おきつ(略)」、また「沖とアラハ」に対して「小しま(略)」、また「濱とアラハ」に対して「松。あらし浪風(略)」とあります。宗達が連歌の心得があれば、そういう寄合は知っていたでありましょう。

宗達は「住吉の白波」を詠んだ躬恒と経信の好対照の和歌をとりあげ、その歌のころを屏風の右隻左隻に描きわけたのです。彼は王朝の幻想の世思を奇抜な趣向をもって現出させ、近世絵画の方向を示しました。(林進)